

令和 4 年 4 月 6 日

協会けんぽ(全国健康保険協会)とは、主に中小企業の従業員とその家族が加入する健康保険です。平成 20 年に政府管掌健康保険を引き継いで設立されました。全国で約 4,036 万人、うち長野支部では約 66 万人が加入しています。

【お問い合わせ先】

〒380-8583

長野市南長野西後町 1597-1

長野朝日八十二ビル 8 階

全国健康保険協会長野支部

企画総務グループ 渡辺

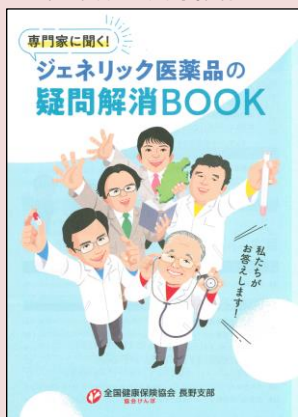
TEL:026-238-1251 FAX:026-238-1257

『ジェネリック医薬品の疑問解消 BOOK』を作製、配布開始 ～長野県内の専門家がジェネリック医薬品について Q&A 形式で解説～

協会けんぽ長野支部では、ジェネリック医薬品の使用を促進するため、冊子『**ジェネリック医薬品の疑問解消 BOOK**』(A5、32 ページ)を作製しました。本冊子は、協会けんぽ加入者の代表から寄せられたジェネリック医薬品についての 23 の疑問や不安を県内で活躍されている専門家の方々から解説していただき、Q&A 形式でまとめたものです。

この冊子は、長野支部のホームページで公開中です。PDF 形式のデータとなっており、どなたでも閲覧できます。また、県内の保険薬局でも配布しています。

ジェネリック医薬品の疑問解消 BOOK(表紙)



ジェネリック医薬品の疑問解消 BOOK(本文)



●作製の目的

読者の方に「ジェネリック医薬品とは何か」や「安全性を確保するためにどんな取り組みがあるか」、「ジェネリック医薬品のメリット」などを知ってもらい、ジェネリック医薬品に対する疑問や不安を払拭してもらうこと、また、医薬品を選択する際の判断材料の一つとしてもらうことを目的としています。

●冊子の概要

協会けんぽ加入者代表に聞いた「ジェネリック医薬品への疑問や不安」を専門家の方々にインタビューし、Q&A 形式でまとめました。

インタビューした専門家及び加入者代表	医師	東口病院(長野市)	1 名
	薬剤師	長野県薬剤師会副会長、有限会社加賀美 代表取締役	1 名
	製薬事業者	寿製薬株式会社(坂城町)	1 名
	大学教授	信州大学(松本市)医療経済学、応用計量経済学	1 名
	薬事行政担当者	長野県庁	1 名
	加入者代表	支部評議員	3 名

作製部数 冊子:45,000 部、冊子 PR 用ポスター:1,000 枚

●冊子の特長

- ①県内で活躍されている方々にインタビューすることで、県内薬局を利用する読者の興味を引くとともに親しみを感じてもらえるようにしました。
- ②質問と回答にインタビューの似顔絵をつけるなどイラストやグラフ等を用いて、専門的な内容でも読みやすい誌面としました。
- ③回答者のテーマカラーを設定して持ち物を固定するなど、誰が何を回答しているかをわかりやすく表示することで、情報の出どころを明確にしました。
- ④冊子の配布を保険薬局経由とすることで、薬局の担当者が患者に説明する際の資料としても活用できるようにしました。

●協会けんぽ長野支部におけるジェネリック医薬品の使用状況について

—現在の状況—

長野支部のジェネリック医薬品使用割合は81.9%(令和3年11月診療分)であり、国の目標である80%を上回っているものの、全支部における順位は17位に留まっています。1位の沖縄支部は88.9%(同)で、その差は7%あります。長野支部の使用割合の伸び率でみると、令和2年11月が前年同月比+2.2%に対して令和3年11月は同+0.1%と、伸びが鈍化している状況です。

—今後について—

本冊子を通じて、ジェネリック医薬品に対する疑問や不安を解消しつつ、加入者のジェネリック医薬品の使用を推し進めていきます。

ジェネリック医薬品の使用促進による効果として、先発品よりも安価なジェネリック医薬品に切り替えることで加入者の薬代が軽減されるほか、その使用割合は協会けんぽのインセンティブ制度における指標の一つであるため、翌々年度の長野支部健康保険料率の低減にもつながります。

ジェネリック医薬品の品質不正問題の影響により、一部の医薬品で供給不足や欠品などが発生していますが、長野支部では引き続き、医薬品をとりまく動向を注視しつつ、関係団体と連携してジェネリック医薬品の使用を促進してまいります。